

開催日時： 2005年8月20日（土）14：30～16：50  
 場 所： 名張シティホテル 3階 天平・白鳳の間  
 参加者数： 意見発表者4名 委員14名 一般傍聴者155名

**1. 開会の挨拶、意見交換会の進め方、意見発表者・代表委員の紹介**

寺田委員長より、意見交換会を開催するにあたって、流域委員会の役割と意見交換会の位置づけについて説明がなされた。その後、進行役より、意見交換会の進め方について説明がなされた後、意見発表者と代表委員の自己紹介が行われた。

**2. 意見発表**

意見発表者より、資料「意見発表者から頂いたご意見」を用いて意見発表がなされた後、会場の一般傍聴者から寄せられたご意見の紹介や意見聴取が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・猪上泰氏（意見発表者）：旧青山町における川上ダム計画の経緯、地域の治水・利水の現状と川上ダム早期完成の必要性、河川管理者の「5ダムの方針」への支持等について、意見が述べられた。
- ・佐治行雄氏（意見発表者）：伊賀市小田地区の過去の水害の状況、度重なる洪水から逃れるべく実施された集団移居、地域住民が下流・大阪のために上野遊水地計画に協力してきた経緯、川上ダム早期の着工の必要性等について、意見が述べられた。
- ・畑中尚氏（意見発表者）：100年先の未来を考える大切さ、ダム予定地の森林復興、川上ダムの問題点等について意見が述べられた。
- ・森本博氏（意見発表者）：改正河川法の立場に立って、主に川上ダムと環境問題（水系の分断、ヘドロ、富栄養化、オオタカ・オオサンショウウオ・ポピュラーな生物の保護）について意見が述べられた。
- ・一般傍聴者：河川管理者によるオオサンショウウオ移転の追跡調査の結果は「移転させた50個体のうち18個体しか確認できなかった」としている。これは非常に少ないのではないか。それにもかかわらず、河川管理者が「大きな影響は見られない」という結論を出しているのは、大きな問題だ。
- ・一般傍聴者：水質問題は水道水に関わる。国立環境研究所の岩井氏の論文の中で、溶存有機物とトリハロメタンの関係について研究されている。河川管理者も検討していくべきだ。
- ・一般傍聴者：委員会は、安心と安全を踏まえた方向性を出してほしい。ダムを中止することが委員会の役割のように思える。岩倉峡開削は伊賀地域の大きな課題だ。下流・大阪の被害を軽減するために、伊賀地域に重荷が背負わされている。我々が住んでいるそばの里川にはすでに魚がいない。ダム予定地だけではなく、全体を見て環境を考えていかないといけない。また、高山ダムでは夏場は特に裸地が目立つ。流域委員会は既存のダムや河川整備にも触れて頂きたい。
- ・一般傍聴者：オオサンショウウオの移転は、すでに本番が実施されている。しかも、人工巢穴にいたってはほんの少し工夫しかなされていない。オオサンショウウオの移転は即刻止めて頂きたい。川上ダム周辺は伊勢神宮の持ち物として保護されてきたから、オオサンショウウオが育ってきた。

○休憩中に一般傍聴者から寄せられたご意見

「早く川上ダムを建設してほしい」、「ダムができなければどうなるのか」、「水位と流量がよくわかっていないのは以ての外だ」、「建設予定地周辺の活断層の調査は行われているのか。行われたのであれば、結果を公表してほしい」、「オオサンショウウオの移転は試験のレベルを超えており、すでに本番がなされているのではないか」といったご意見が寄せられた。また、委員から「経済的補償も含めた遊水地の掘り下げについて、地域住民の方はどう考えておられるでしょうか」という質問が出されている（進行役）。

**3. 意見交換**

意見発表者、代表委員、一般傍聴者の間で意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

○治水について

- ・ダムに過剰な期待をしている。過去の降雨を見れば、川上ダムだけで安全というわけにはいかない。委員会は、河道改修・岩倉峡の部分開削・遊水地の3点セットで川上ダムと同等程度の治水が達成できると考えている。川上ダムは国との約束だという地域住民のご意見は大変よく分かるし、ダムが必要というご意見もよくわかるが、川上ダムだけではこの地域は守れない（代表委員）。

←委員会には、川上ダムのこれまでの経緯に目を向けてほしい。岩倉峡狭窄部を小開削した時に、下流域・大阪への影響に関する問題がもっとも大きかった（意見発表者）。

←我々は上野遊水地に納得はできないが、事業に協力してきた。住民対話集会で川上ダムの代替案につ

いても議論したが、結局、具体的な案は出てこなかった。我々の願いは、岩倉峽を少しでも開削してほしいということだ（意見発表者）。

- ・岩倉峽狭窄部の岩を二つ三つ除去すれば流れがよくなるのではないか。その場合、下流域にどの程度の影響が出るのか。過去20～30年の降雨分布から検討してみる必要がある（意見発表者）。
- ・川上ダムをつくることで全てが解決するとは思っていない。上流域の水と森林をどう守っていくのか一番大切だ。また、ダム計画のために旧青山町の社会基盤の整備（下水整備等）が非常に遅れてしまったが、ようやく緒についた。委員会には、意見を早くまとめてほしい（意見発表者）。
- ・上野地区の治水が大変重要だと認識している。川上ダム建設を願っている皆様と思いは同じだ。しかし、利水者がダム事業から撤退したことからわかるように、社会情勢も大きく変わってきている。ダム建設のために多くの費用が使われたが、今後も多くの費用が必要になる。ダムは地域性の高い問題だが、費用対効果の検討も必要。そういった総合的な観点から検討をしている（代表委員）。

#### ○利水について

- ・伊賀一円の導水管事業がほぼ完成しつつあるので、旧青山町等からの転用や青蓮寺ダムの農業用水転用を認めてもらえれば、川上ダムがなくてもいける。森林保水も1つの方法だ（意見発表者）。
- ・利水者がいなくなれば、ダムの建設は難しくなるが、それは河川管理者が判断することであり、我々や委員会が判断することではない。委員会には、利水者撤退と川上ダムをどのように軟着陸させていくかについて、意見を言ってもらえばよいと思っている（意見発表者）。
- ・地域の下水道整備等は重要な問題だが、流域委員会は河川整備計画の範囲で議論をしており、地域の整備事業等について議論ができない。ダムの結論は別にして、河川管理者に一生懸命取り組んで頂かないといけない。それが地域の問題の解決の糸口になっていく（代表委員）。

#### ○環境について

- ・環境は目先の問題ではなく、50年先、100年先の問題だ。川上ダム計画が持ち上がった時代には環境の話は出ていなかった。私も必要なダムはつくらないといけないと思っているが、現状で昭和28年の1.8倍程度の雨が降っても大丈夫という計算結果もある。環境を考えれば、川上ダムは不要（意見発表者）。
- ・この地域に生息しているオオサンショウウオは非常に重要な意味を持っている。確かに、地域の治水も重要だが、オオサンショウウオについても慎重に考えていかないといけない（代表委員）。

#### ○地域における経緯や移転者の思いについて

- ・住民の感情問題が大きな課題となっている。移転された皆様は「ダムができないと気持ちの整理ができない」と仰っていた。しかし、ダム計画のために周辺整備事業が遅れていることも事実であり、ダムだけで地域振興をするべきではないと思う。もちろん、水没者の皆様の気持ちの整理をしていくことも重要だ。時間をかければできると思う（意見発表者）。
- ・「川上ダムをつくらないなら、元の場所に帰してくれ」というのが、移転者の皆様の気持ちだ。この問題の解決なくして、川上ダム中止ということにはならない（意見発表者）。

#### 4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者からの意見聴取が行われ、3名の傍聴者から意見があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・私は水没住民だが、当時建設省は「みなさんに迷惑はかけません」と言っていた。ところが今はどうか。本日の意見発表者に移転住民がおらず、住民との意見交換会になっていない。万が一、川上ダムが中止になるなら、元の土地に帰してほしい。委員会には移転した住民の声を聴いてほしい。ダムのおかげで道路や公共施設ができたにもかかわらず、「ダムは中止にすべき」では、我々は一体どうなるのか。
- ・委員から遊水地の掘り下げについて質問が出されていたが、とんでもない話だ。遊水地を1m掘り下げると河床よりも低くなる。毎日ポンプで水を汲み上げることなどできない。溜め池の堤防やあぜ道のかさ上げにも地権者は絶対に納得しない。やるなら、全ての土地を買い上げるしかない。
- ・私は水没住民だ。かつて建設省の官僚は「大阪が人間の胴体であるなら、上野は頭や。川上は片目にもいのかんのか。それをつぶすぐらいしようがないやないか」というような暴言を吐いて、ここまで我々を引きずってきた。国交省には過去の反省をして頂きたい。

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。